

2024年10月6日

「言い尽くせない贈り物」

コリントの信徒への手紙二 9:6-15

早川 真牧師

パウロはここで献金を種を蒔くことにたとえています。ここでわずかに蒔く、豊かに蒔くとありますが、これは必ずしも額が大きい、少ないということではありません。神様はたとえそれが人の目から見て乏しくても、それをささげる心をご覧になっています。悲しみながら献金するのではなく、また強制されてでもなく、喜んで、こうしようと心に決めたとおりにしなさい、と言われていました。

11 節にはコリントの教会の信徒がエルサレムの教会の信徒たちに施しをしたことによって、「神に対する」感謝の念が引き出されるということが言われています。ここではコリントの信徒に対する感謝の念とは言われていません。与えた者も与えられた者も恵みと愛の源である神に感謝する、それが教会のあるべき姿です。貧しい者に施しをするということは貧しい者の不足分を補うだけでなく人々の神への感謝を満ち溢れさせるものとなることが示されています。

イエス・キリストの生涯は、まさに貧しい人々に惜しまず施された生涯でした。イエス・キリストは神の身分も栄えも捨て、この暗く貧しい世に来られました。そして十字架の上で、永遠の命の種を蒔いてくださいました。この神の贈り物は言い尽くすことのできない贈り物として、今朝も世界中で語り伝えられています。言葉だけでなく、惜しまず施すということによってイエス・キリストの福音は証明され、世界中で語り続けられています。この言い尽くせない贈り物を、私たちがまた、与えられた恵みの種を蒔くことを通して証してまいりたいと思います。